

慈悲と寛大さ  
グルマーイについての話  
バースデーブリス(誕生日の至福)を祝って

グルマーイの話 1

ヴァニ・アグラワル

私は、インドにあるグルデーヴ・シッダ・ピートゥでグルクラの生徒として 6 年間  
セーヴァーを行った後、1991 年に SYDA ファウンデーションのスタッフとしてセー  
ヴァーをささげるため、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムにやって来ました。

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを訪れる直前に、私の人生にある重大な  
出来事が起こり、私はそれをグルマーイに伝えたいと強く思っていました。私は、  
グルマーイと共にいた時に何度もそれを伝えようとしたのですが、何か自分でもよく  
わからない理由から、結局伝えられませんでした。

到着して 2 カ月後、私はやっと人生に起こったことをグルマーイに伝えることが  
できました。

グルマーイは尋ねました。「なぜもっと早く話してくれなかったのですか？」

私は答えました。「グルマーイ、なぜこれだけ長い間打ち明けられなかったのか、  
自分でもわからないのです」

すると、グルマーイはとても美しいことを言いました。「जब तुम्हें ऐसा लगे और तुम आगे आकर अपनी बात न बता पाओ तो पत्र लिखकर पूजा में रखो और प्रार्थना करो।」  
「もしもこんなふうに関じ、私の元に来て伝えることができないなら、それを手紙に書いてプージャーの上に置き、祈りなさい」と言ったのです。

数カ月後、私はある状況に陥り、グルマーイが言ったことをその通り実行することにしました。私は、グルマーイに三つの質問をしたいと思っていたのですが、すべきかどうか迷っていました。そこで、手紙を書いたのです。手紙の中で、その三つの質問を非常にはっきりと正確に書きました。そして、プージャーに手紙を載せ、導きを頂けるよう祈りました。

翌朝、アヌグラハのアムリットに向かって歩いていると、向こうからグルマーイがこちらに歩いて来るのが見えました。グルマーイは私を見ると、私の目の前で立ち止まり、目を輝かせながら私を見て、こう言いました。「いくつか聞きたいことがあるのでしょう」。それからグルマーイは、三つの質問すべてに答えてくれました。それも、あの手紙に書いた順番通りに！

私はびっくりしました。グルマーイは、私の心の祈りを聞いてくれていたのです。この出来事があって、私がどこにいようと、グルと私はいつも一緒だと確信するようになりました。祈りをささげるときはいつでも、グルは聞いてくれているのです。

